



白山市地域公共交通計画の概要

計画の策定目的と計画期間

地域公共交通の現状・問題点、課題の整理を踏まえて、様々な公共交通を網羅したネットワーク全体を一体的に形づくり、持続させるために達成すべき目標を定め、その目標達成のために行う事業内容、実施スケジュール等ならびに住民・交通事業者・行政の役割等を明記しています。

計画期間: 令和7年度～令和11年度

本市における交通の現状と課題

交通機関別の課題

【鉄道】

- IRいしかわ鉄道線は県及び沿線市町と連携して利便性を確保しつつ、利用促進に取り組む必要があります。
- 北陸鉄道石川線は、官民が連携して利便性を上げつつ、さらなる利用増による経営の安定化が必要です。
- 駐車場や待合環境の整備、アクセスのしやすさ向上及びバリアフリー化など、一層の利用を促す施策が必要です。

【バス】

- 乗務員不足の中、鉄道や他交通機関との役割分担のもと必要な路線の維持に向けて取り組む必要があります。
- コミュニティバス「めぐーる」は、今後も継続的な見直しにより、市民生活に必要な移動手段を提供する必要があります。
- 白山ろく地域においては、将来にわたって持続可能かつ一定の利便性を持つ移動手段の確保が必要です。

市民アンケート結果から見た課題

- 現在の市民の移動実態は、その大部分を自動車に依存しており、公共交通の利用割合は高くありませんが、約2割程度の人が月1回以上電車・バスを利用しており、公共交通は市民生活に必要な移動を支える重要な交通であると言えます。
- 金沢市・野々市市への移動の結び付きが強いことから、両市との連携を引き続き進めて行く観点から、IRいしかわ鉄道線、北陸鉄道石川線及び一般路線バスの利便性確保が重要です。
- オンデマンド交通については、現在のコミュニティバス利用者から、導入に慎重な意見が多く寄せられました。

行政課題・まちづくりから見た課題

- 人口の伸びは近年鈍化しており、高齢化も進行しているため、高齢化に対応した市街地の形成が必要です。
- 鉄道駅と路線バス・コミュニティバスが市内をほぼ網羅した運行状況となっており、今後も利用者数の向上とサービスの維持を図っていくことが必要です。
- 生活利便施設の多くが郊外へと分散しており、中心部への集約化が必要ですが、市内各地域の中心部は鉄道駅を中心に形成され周辺市との連携性に優れており、今後も駅を中心とした公共交通ネットワークの維持・充実を図っていく必要があります。

地域公共交通において目指す姿

基本理念

活力あふれる元気都市を交通面から実現するため
将来にわたり持続的に利用される公共交通を目指す

基本方針1

鉄道軸及び主要駅を中心とした交通ネットワークの充実

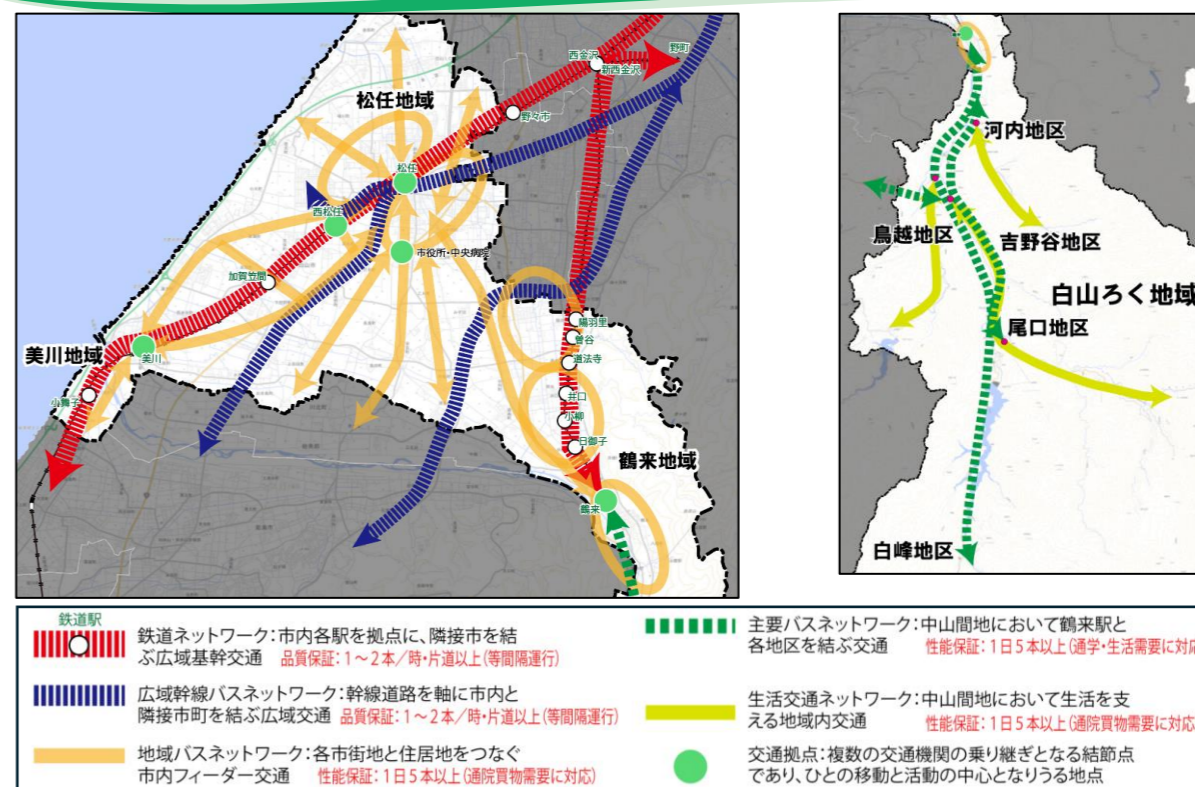
基本方針2

生活に必要な公共交通の持続的な運行継続

基本方針3

公共交通のさらなる利用を通じた外出機会の増加と交流の促進

地域公共交通ネットワークの将来像（イメージ）



計画目標・KPI（重要成果指標）

基本方針1：鉄道軸及び主要駅を中心とした交通ネットワークの充実

- ・目標指標 IRいしかわ鉄道線の乗降人員（松任～小舞子駅間の乗降人員計）（R5：10,468人/日→R11：13,000人/日）
北陸鉄道石川線の乗降人員（陽羽里～鶴来駅間の乗降人員計）（R5：1,738人/日→R11：2,000人/日）

基本方針2：生活に必要な公共交通の持続的な運行継続

- ・目標指標 一般路線バス（補助対象系統）の1日当りの利用者数（R5：311人/日→R11：410人/日）【R8.2.20変更】
コミュニティバスの1日当りの利用者数（R5：579人/日→R11：650人/日）
コミュニティバス・一般路線バスの行政負担額（R5：199,453千円/年→R11：199,453千円/年）

基本方針3：公共交通のさらなる利用を通じた外出機会の増加と交流の促進

- ・目標指標 電車・バスのいずれかを月1日以上利用している人の割合（R6：17%→R11：20%）
公共交通利用促進の発信・活動回数（R6：3回/年→R11：5回以上/年）

目標達成のために実施する事業

基本方針1 鉄道軸及び主要駅を中心とした交通ネットワークの充実



- 鉄道（IRいしかわ鉄道線、北陸鉄道石川線）は本市の基幹となる公共交通であることから、利便性の高い運行本数の確保に努めるとともに、まちの中心となる鉄道駅の拠点機能を強化します。
- 北陸鉄道石川線においては、みなし上下分離方式による鉄道事業の再構築を目指し、将来にわたって安定的な輸送を実現するとともに、県、沿線市町及び交通事業者と連携して、利便性向上策の実施に努めます。
- 市内各拠点と主要な鉄道駅を結ぶ交通体系を目指し、主要駅における複数交通機関の乗り継ぎが円滑になるようなダイヤ接続及び情報提供を行います。



施策	事業名
(1) 鉄道の拠点機能強化	交通結節点として、駅における乗り換え環境の整備 駅におけるバリアフリー化の促進
(2) 北陸鉄道石川線の鉄道事業再構築に向けた取組	安全輸送・利用向上に向けた設備投資及びその支援 利便性向上及び利用促進に向けた取組
(3) 鉄道駅における鉄道と多様なモードの接続強化	駅接続ダイヤ及び運行ルートの見直し 乗り継ぎ情報の提供

基本方針2 生活に必要な公共交通の持続的な運行継続



- 全国的に公共交通の担い手となる乗務員が不足している中で、将来にわたって市民や来訪者の移動手段を確保するため、一般路線バス及びコミュニティバスの継続運行に向けて取り組みます。
- コミュニティバスは限られた車両、人員及び予算の中、効率的な運用による利便性の改善を目指します。利用実態を継続的にモニタリングするとともに、市民や乗務員の意見を参考にしながら毎年のルート及びダイヤの見直しを実施し、複数交通機関の乗り継ぎに配慮した運行計画とします。
- 将来、コミュニティバスでの運行維持が困難になった場合や市民ニーズに合わなくなった場合、地域からの要望も踏まえ、新しい運行形態（デマンド交通、ボランティア輸送等）への移行も含め、交通空白が生じないように努めます。



(1) 路線バスの運行維持に向けた取組	路線バスの運行維持 利用実態を踏まえた改善
(2) コミュニティバス「めぐーる」の継続的な運行	乗降調査による利用実態把握 利用実態を踏まえたルート及びダイヤの見直し コミュニティバス車両の計画的な更新 周辺市町のコミュニティバスとの連携
(3) 利便性に優れた運行	路線バスとコミュニティバスとの接続改善
(4) 地域主体の新しい運行形態	デマンド交通やボランティア輸送等の地域主体の新しい運行形態を検討

基本方針3 公共交通のさらなる利用を通じた外出機会の増加と交流の促進



- 多様な媒体による公共交通のPRや情報提供によるわかりやすさ向上により、利用頻度の増加と公共交通に対する満足度の向上を図ります。
- 公共交通の利用が健康づくりや外出促進を通じた地域の活性化と交流の促進につながることに鑑み、市民や来訪者の公共交通による移動の働きかけを行います。
- 高齢者の免許証自主返納等の機会に合わせ公共交通の利用促進を図り、安全・安心して生活できる交通社会を実現します。



(1) 公共交通に関する情報提供の充実	コミュニティバス総合時刻表・携帯時刻表の発行継続及び改良 鉄道乗継時刻表の発行 地域別「のりかえ時刻表」の発行 情報検索サイトによるコミュニティバス運行情報提供 幅広い世代の市民に向けた乗車機会拡大への取組 ニューズレターによる公共交通利用促進の発信
(2) 交通事業者と連携したイベントPR	鉄道車両基地の一般公開等のイベント共催 北陸鉄道石川線のイベント列車、観光企画PR
(3) 地域・企業と連携した公共交通PR	地域イベントと連携した公共交通の利用促進 企業と連携した公共交通の利用促進PR
(4) 高齢者に向けた公共交通利用PR	コミュニティバスの高齢者無料乗車証の継続発行 白山市高齢者運転免許自主返納支援事業